

## 日本ゼオン、光学フィルム工場の第4期能力増強

2010年2月9日

日本ゼオン株式会社（社長：古河 直純 東京都千代田区）は、液晶テレビの需要拡大に伴い、光学フィルム（ゼオノア製位相差フィルム）の採用が拡大していることに対応し、富山県氷見市にある光学フィルム工場の第4期能力増強投資を決定した。


これにより、氷見地区での位相差フィルム生産能力は、現在の3系列年間4,500万平米から、4系列年間6,500万平米となる計画である。また、高岡地区で保有している設備の生産能力も合わせると全体で、年間9,500万平米となる。今回の、氷見地区の増強設備は、2011年1月の稼働を目指す。

ゼオノア製位相差フィルムについては、かねてより設備増強の検討を進めており、今後の需要家の本格量産に対応するため、4系列目の設置を決定した。今後、当社フィルム採用液晶パネルは、韓国大手グループ企業のテレビメーカーや、日本の最大手テレビメーカーにも供給されることから、現在の既設のフィルム製造設備では、年内にはほぼフル稼働となる見込みであり、更なる拡大を図ることとなった。

現在、薄型・省エネルギーを実現するフラットパネルを搭載したテレビは世界的に普及が進んできている。その中でも液晶テレビは今後の成長率も高く、来年度では更なる省エネルギーを実現するLEDバックライト搭載の液晶テレビが各メーカーで量産化される見込みである。韓国テレビメーカーでは次世代テレビである「LEDテレビ」の開発・上市が先行しているが、これにも高品位の液晶パネルが供給されており、欧米を中心に目覚ましい躍進を遂げている現状から、今後も大きな成長が期待できることもあり、今回の能力増強となった。

日本ゼオンのゼオノア製位相差フィルムは、高透明性、低波長分散、低光弾性などの優れた光学特性が特長であり、液晶テレビのコントラストを高め、より鮮やかな画面を得ることができるとが市場に認知され、急速に需要が拡大してきている状況である。

生産は、富山県氷見市のフィルム工場で日本ゼオン独自の技術による業界初の溶融押し出し法（原料樹脂に熱をかけて溶融させ、そのまま押し出してフィルムに成型する方式）による一貫生産方式（原料樹脂の投入から位相差フィルム製品完成までが、連続的に行える方式）を行っているため、安定した品質とコストを実現し、さらには、従来方法（キャスト法）での溶剤などを一切使用しないため、環境に優しい工場・製品となっている。

 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 **CSR**統括部門 広報室  
Tel : 03-3216-2747

[▶ お問い合わせフォーム](#)